

隣寺 ～僧侶と旅する歩く寺～

RINJI - The Walking Temple Along With A Monk -

蓮溪芳仁



寺は、歩き出す。

寺はかつて、人を迎え入れる場であった。

寺院は仏法布教の場であると同時に、江戸時代には民衆の戸籍を管理し、時に学舎を開き、子どもの遊び場として、あるいは地域の話し合いの場として機能していた。しかし明治以降、これら布教以外の役割は他の施設が担うよう整備が進み、寺院の「地域拠点」としての必要性は徐々に減少していった。また、地方の過疎化により寺院を支えている檀家の数も年々減少し、さらに近年では日本人の無宗教化により若者の寺離れが進み、人々の仏教への理解も薄れている。

その結果、寺院数も年々減少しており、この傾向が続けば一部の観光地化している比較的大きな寺院を除き、日本から小さな寺院(所謂末寺)が消えてなくなる未来もそう遠くはない。しかし、人々が交流の場や拠り所を必要としない社会となったわけではない。物理的な場としてはカフェや居酒屋がそれを担い、近年増加しているSNSでのチャットやオンラインサロンも、かつての寺院の代役とも言えるのではないだろうか。

つまり、人々がそのような場を必要としているにも関わらず、寺院の存続が危ぶまれているのだ。そのような結果を招いた原因の一つとして、寺院に関する「文化の継承」が行われていないということが挙げられる。

親が子を法事に連れて行っていれば、仏教行事が現代の暮らしにも適応できていれば、都心に移り住んだ人々に寺院が付いて行くことができる。しかし、今の状況は変わっていたかもしれない。

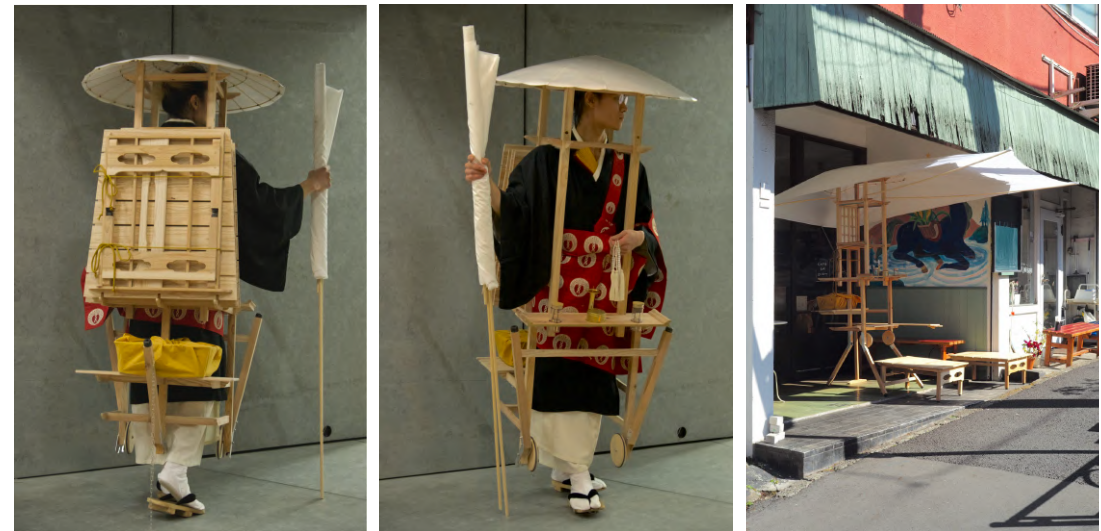
時代は変化するものであり、「寺」という文化自体が失われることはそう不思議なことではない。しかし、私は寺院に生まれ育ち、建築を学ぶ身としてそこに新たな一歩を提案したい。

これは、寺院に関する「文化の継承」を目的として、寺院と関係をつぶ可能性のある「人」、あるいは新たな寺院となる可能性のある「場」を求めて移動する空間装置「歩く寺」という、寺院の進む道の一つの提案である。

寺は、歩き出す。

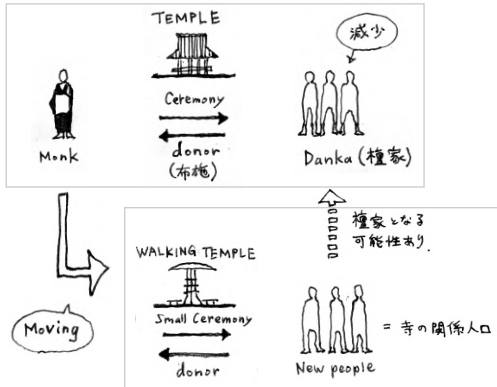


ある土地に着地して「声明・説法・茶会」小さな法事を開催する。



折り畳まれ、僧侶を宿主として移動する。

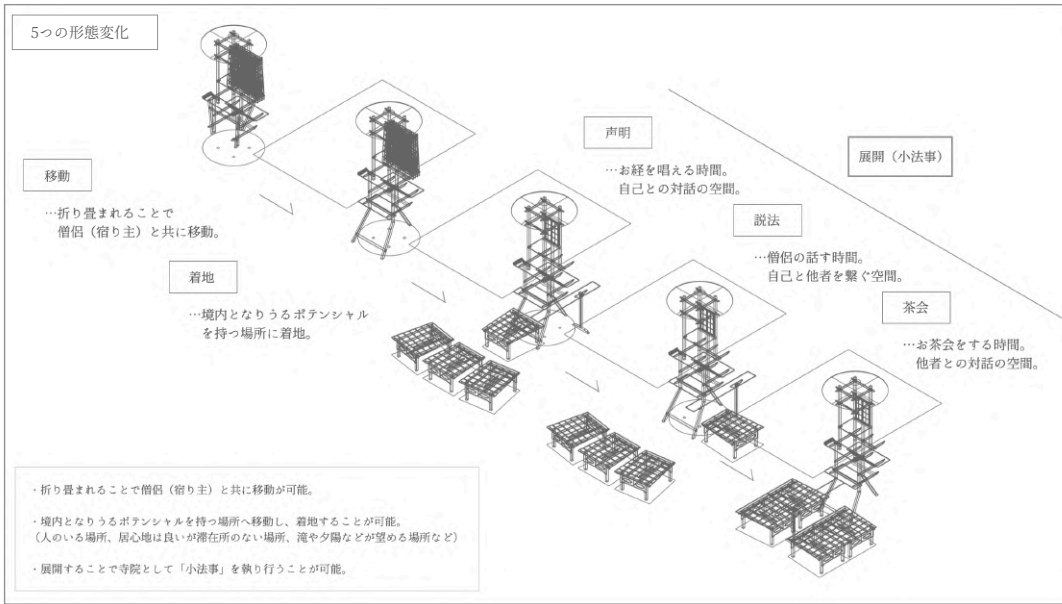
従来のコミュニティ=村社会



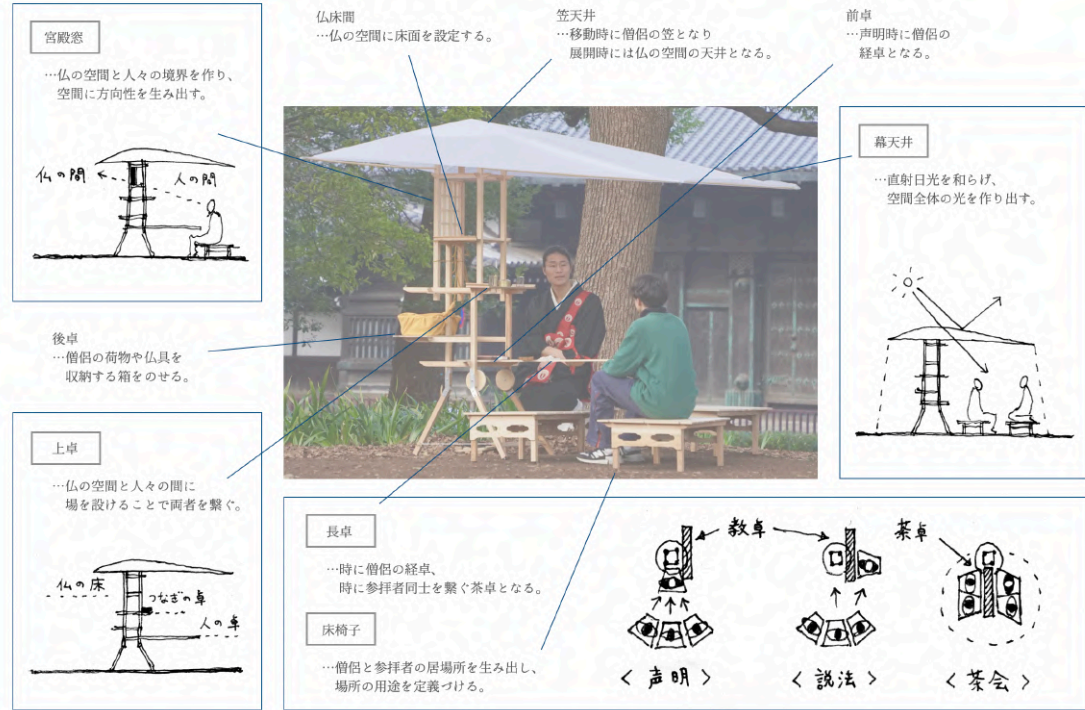
新しいコミュニティを形成

最終成果物について ~移動式寺院「歩く寺」~

形態変化について



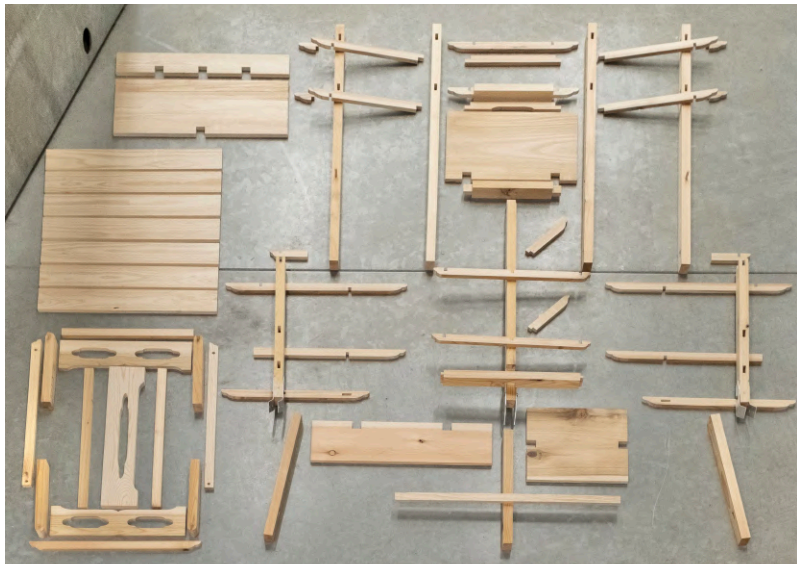
構成要素について



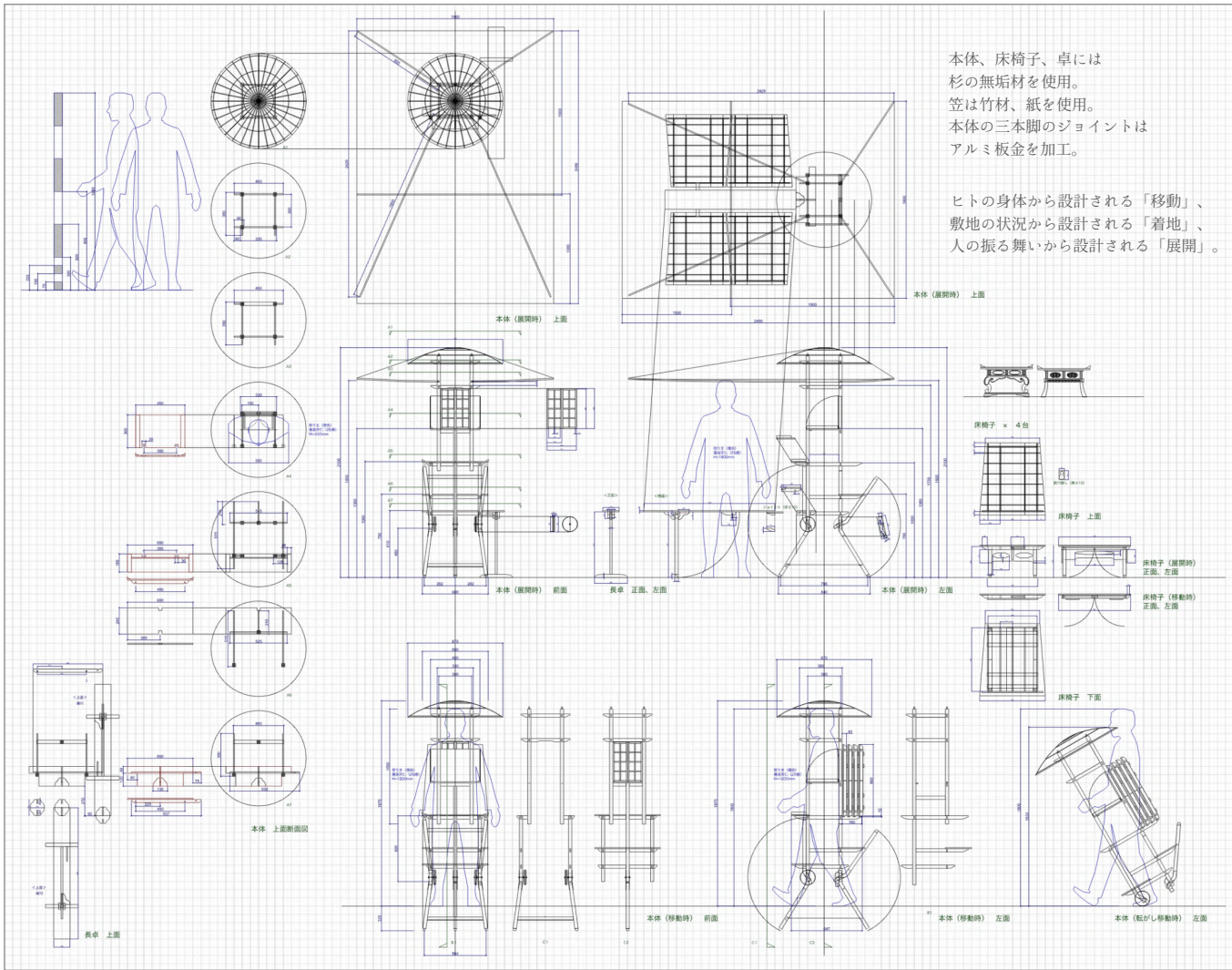
ディテールについて



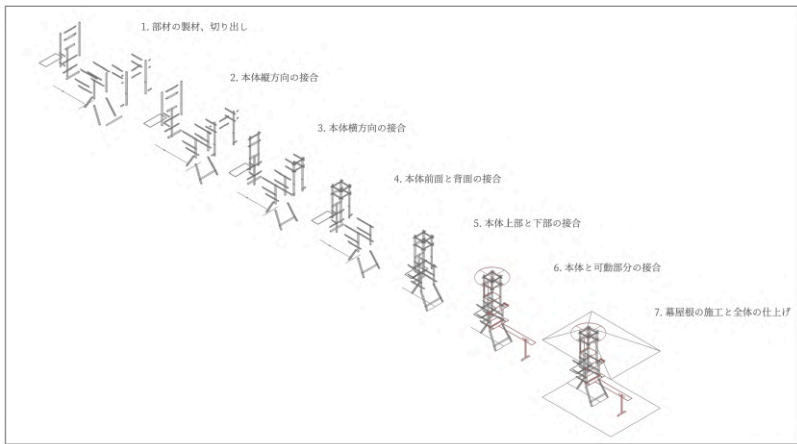
部材写真…床椅子1台 (画像左)、本体 (画像右)



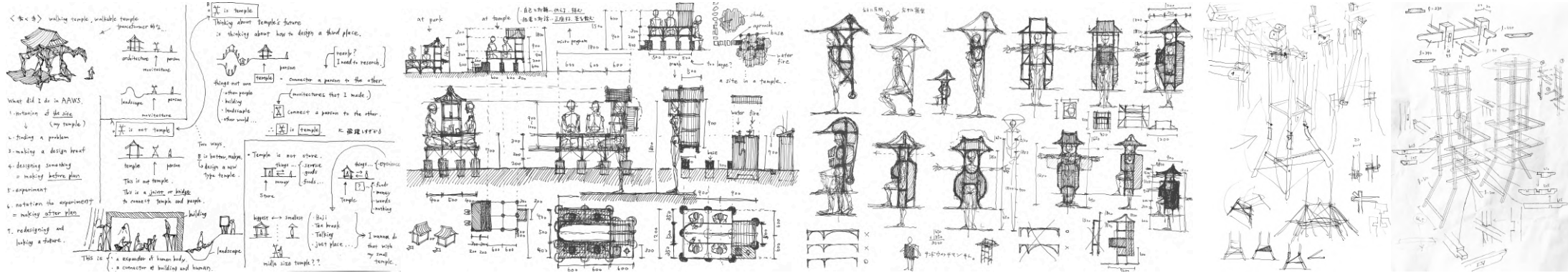
並立断面図



施工計画図



設計ドローイング (一部抜粋)



修士研究、及び設計過程について ～移動式建築から移動式寺院まで～

研究1 __ウガンダと東京における移動可能な建築空間



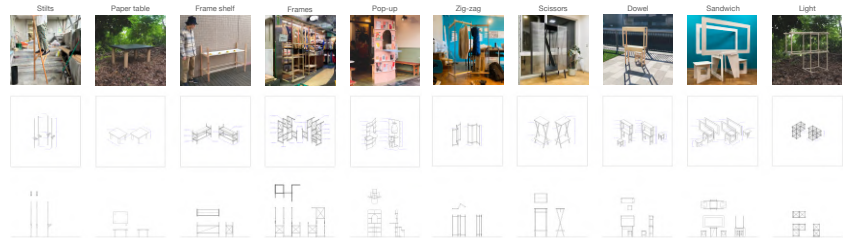
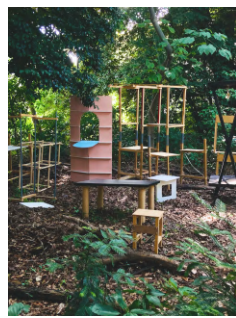
ウガンダ、カンバラ、ナカセロマーケット、青果店



日本、東京、アメ横商店街、衣料品店

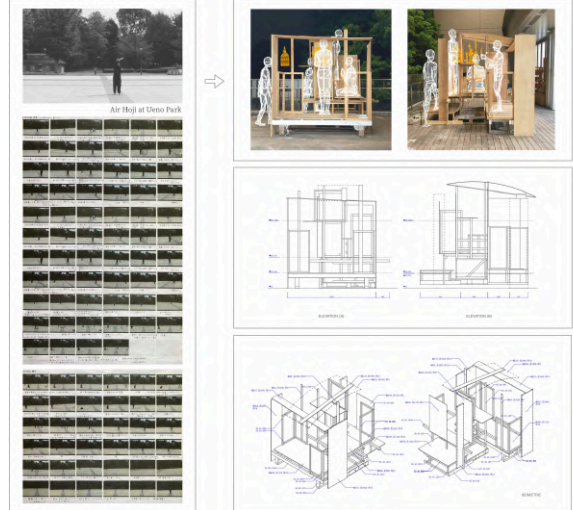
研究室活動の一環として行なった、ウガンダと東京という環境も文化も異なる2つの都市のマーケットを敷地とした移動する空間に関する研究。現地の建築学生とオンラインでセッションをしつつ、同時に首都カンバラと東京の市場空間をリサーチ、最終的に双方共に移動可能な店舗装置を展開実験するに至る。この研究がきっかけとなり、移動式建築の研究と設計を始めることとなる。

研究2 __移動可能な建築空間



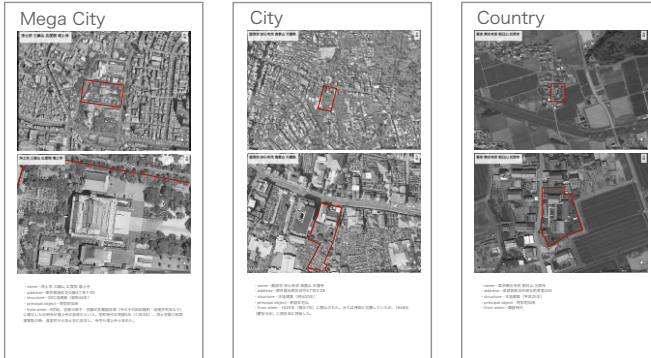
移動可能な建築空間の設計方法考案、機構実験、及び運用実験を目的として、1/1 scale で移動式建築を制作し東京都内にて設置実験を繰り返す。「座る」や「かがむ」などの人の小さな振る舞いをプログラムとし、「折り畳む」、「解体する」などのどのように移動可能なものとするかを条件として、設計された移動式建築が都市の中でどのように機能するかを実践、観察する。これらによる学びは、移動式寺院のハードとしての機構、ソフトとしての展開法へと活かされる。

研究3 __寺院空間の再構成

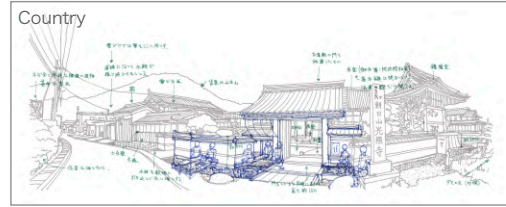
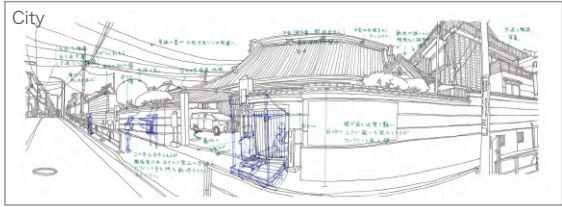
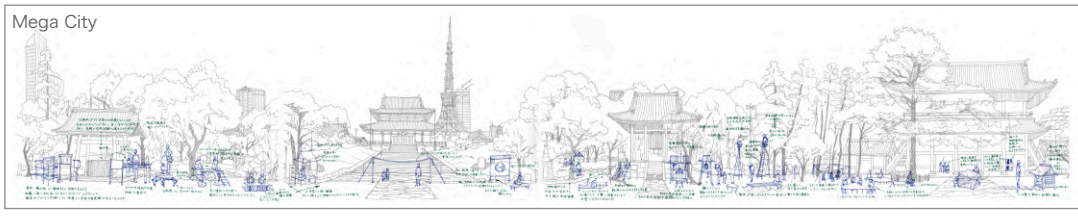


既存の「寺院」という建築空間が何であるかを明らかにするべく、上野公園にて浄土真宗の寺院内で行われる法事を「Air Hoji」として再現、そこから抽出された人の動きを可能な限り小さな形で再現可能とする空間を設計した。これによる学びは、既存寺院で行われている人の振る舞いからなる機能的な最小空間の構成を可能とし、これは最終的な移動式寺院の全体構成の大枠となる。しかし、この空間の移動は不可能である上に、人の感覚や行動に大きな影響を与える装飾や畳、障子などの具象的なモチーフは排除されたものとなっている。

研究4 __寺院に取り付く可動建築空間



既存寺院の具象的なモチーフの吸収、想定される移動式寺院の展開する敷地に関する考察を目的として、大都市、都市、地方という毛色の異なる3つの寺院の境内及び、その周辺を敷地として、移動式建築の設置想定をパーススケッチを利用して行なった。いずれも比較的門扉の閉じられた既存寺院空間に、人が訪れやすくするために、あるいは居座りやすくするために、移動式建築がどのように作用するかを考察している。これによる学びは、移動式寺院の意匠ディテール設計、及び全体構成に影響を与える。



研究5 __移動式寺院の制作実験



研究1～4を通じて得た学びを元に移動式寺院を構成。寺院としての空間構成、及び持ち運びが可能な機構に加え、その空間装置の宿主となる人体とどのような物理的関係性を持つべきかを1/1で制作、設置することで実験、考察を行う。これによる学びから、設計される移動式寺院が建築であると同時に移動中における宿主（僧侶）の衣服の一部であるという要素が生まれる。